

【里山レンジャーのロマン紀行】

令和3年2月24日（水）晴れ 「**やっと、お目にかかりました！**」



カンアオイの開花です。  
株元に暗紫色の筒状の花をつけます。



平成21年の現地調査では、126科556種の植物の確認がありましたが、それによると種名は、アツミカンアオイです。開花期は、2月の終わりころで、当地に春を告げてくれます。（散策路）

2月26日（金）曇り 「**今年は、早い！**」



桜の木が1本開花しました。当地には、ウワミズザクラ、キンキマメザクラ、ヤマザクラ、カスミザクラの4種が確認されています。開花したのは、キンキマメザクラです。樹皮は、鎮咳、解熱、二日酔い、魚肉の食中毒、打撲傷に効くという日本独自の漢方薬になるとのこと。（散策路）

3月2日(火)雨 「収穫なるか？」

シイタケホダ木を作製しました。

昨年11月に、密状態のコナラを間伐し、ホダ木に活用しました。今秋から収穫ができるというシイタケ菌ですが、うまくいけば、イベントに活用したいと思っています。



3月3日(水)晴れ 「カエルも冬眠明け！」

“山の恵みビオトープ”には、5つの池を階段状に連ねて作っています。

カエルの産卵前に、池の泥を撤去したかったのですが、すでにカエルの卵が2つの池に浮いていました。当地には、タゴガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエルの6種が確認されていますが、卵は、活動開始が早いヤマアカガエルのものだと思われます。



3月8日(月)曇り 「出た〜！！」



ビオトープ池をつないでいる水路の中から、突然、体調15cmを上回るヒキガエルが飛び出してきました。

始めは、背中を向けていましたが、いきなり振り返り、にらまれている気がしました。産卵は昨年から見られています。卵塊はひも状で、長いものは20メートルにも及びます。卵は、卵塊中に10,000個くらいもあるとのこと。当地では、新種です！

3月15日（月）晴れ 「満開だあ！」



構内に入りすぐの左手竹林斜面にあるキンキマメザクラが満開です。当施設では、この株が一番早く咲くと思われていたのですが、実際は、2番目に咲く株でした。

3月19日（金）晴れ



当地3番目に咲いたサクラです。  
日本の野生サクラの代表「ヤマザクラ」です。  
若葉と同時に花が咲きます。

（散策路）



ナニワズ 別名ナツボウズ（夏坊主）

福井・福島県より北の日本海側の山地に分布することから、当地ではちょっと貴重な植物です。真夏の一か月間は葉をすべて落とすので別名が。毒としても、薬としても使われることや、和名の由来などおもしろいです。



### 「もう満開だ〜！！ 安寿姫の化身か」

昨年より20日近く早い満開！

よく似たコブシは、花のすぐ裏に葉を一枚付けますが、タムシバは葉がありません。花や枝には香りがあり、葉や枝はかむとキシリトールガムの甘みがあります。囃む（かむ）シバ→タムシバとか。（散策路）



ギンリョウソウ 別名ユウレイタケ

腐生植物（菌類にとりついて必要な養分のすべてを得る植物）としては最も有名なものの一つです。腐葉土から栄養分を得る能力はありません。別名も見た目に、なるほどとうなづけます。（散策路）

3月22日（月）雨・晴れ

### 「万葉の世界へタイムスリップ！！」



万葉歌人山部赤人が詠った「春の野にすみれ摘みにと来しわれそ野をなつかしみ一夜寝にける」のすみれは、このタチツボスミレという説もあります。当地では、当初7種類のスミレが確認されていますが…。



### 「当地では、ど根性スミレとも頑張りスミレとも」

日本固有の種名「スミレ」です。昨年から、壁とアスファルトの狭間に咲きました。一般には深い紫色ですが、当地のものは白花です！！ 葉は山菜として天ぷらに。ただし、他のスミレ科には有毒なものもあるので要注意！ 今年は、この株の隣と近くの芝生に数を増やしています。これで当地8種類目。